

令和4年度 大阪府立光陽支援学校 第3回学校運営協議会議事録

校名	大阪府立光陽支援学校
校長名	藤野 洋子

開催日時	令和5年2月21日(火)
開催場所	本館1階 図書室
出席者(委員)	鎌倉 義雄(委員) 宮本 正路(委員) 北埜 恵一(委員) リモート参加: 小田 浩伸(会長) PTA 会長代理
出席者(学校)	藤野 洋子(校長) 道前 光司(事務長) 篠川 一樹(教頭) 中村 素子(教頭) 竹内 成江(首席) 菊池 亮輔(首席) 藤原 克行(首席) 網中 有里(指導栄養教諭) 佐藤 薫(指導教諭・病弱部主事) 辻 美穂(小学部主事) 佐々木 敦子(中学部主事) 田中 美津子(高等部主事)
傍聴者	保護者 2 名
協議資料	下記議題関係資料及び意見書
備考	

議題等(次第順)
<p>(1) 校長挨拶</p> <p>(2) 「第2回 授業アンケート」について</p> <p>(3) 「学校教育自己診断」結果と分析状況について</p> <p>(4) 「令和4年度 学校経営計画」の達成状況について</p> <p>(5) 「令和5年度 学校経営計画案」について</p> <p>(6) 意見交換</p> <p>(7) 教頭挨拶</p>
協議内容・承認事項等(校長より内容説明)
<p>(1) 校長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年間のまとめ開校60周年の企画をしてきた。子どもたちが見られるようDVDとして作成した。</li> <li>・2代目こうやんをPTA協力のもと作成することができた。</li> </ul> <p>(2) 「第2回 授業アンケート」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権を尊重した教育活動実施のための改善を行うこととなっている。令和5年度に向けて継続または、新たに必要な具体的改善案を出し合っていく。</li> <li>・病弱部、回収率が少ないが、絶対数が少ない。</li> </ul>

### (3) 「学校教育自己診断」結果と分析状況について

・教職員のアンケートでは、全体的に肯定的な意見が増加。保護者アンケートでは、昨年度と同等のパーセンテージを維持している。児童生徒アンケートでは、今年度より全児童生徒対象に実施し、全体で50%ほどの回収率であった。今後も学校での取り組みを発信し続けると共に、次年度は、「人権尊重」「仕事の効率化・働き方改革」について重点的に取り組んでいく。

### (4) 「令和4年度 学校経営計画」の達成状況について

#### 安全安心力の向上

・日々の気づきや、気になったことについて、近くにいる教員に話をするを意識している。すべての児童生徒の健康で気になることがあれば、報告・連絡・相談をすることを徹底してきた。ドクターに来てもらい助言等もしていただいた。「緊急対応シミュレーション」では、いざという時に、子どもたちの命を守るために、設定のバリエーションを増やし、しっかりと行うことができた。大災害があった場合として大阪信愛学院大学と連携会議を3回行い、機械警備の土日夜どう体育館へ入るのか等についても話し合った。

・「通学バス見守りソリューションシステム」については、現在の走行経路が分かるようになり、保護者からは予定が立てやすいと好評である。

#### 授業実践力の向上

・「グランドデザイン」の取り組みが3年目となり、各学部一人は1つのグループに入る形で「育てたい力」を題材にワークショップを行った。小・中・高、積みあがってとぎれない支援を行っていききたい。来年度HPで発表する予定。作って終わりではなく、一人ひとりこんな教員になりたい、こんな子どもを育てたいと指導・支援をして生きたグランドデザインにしていききたい。

・移動式スパイダー好事例等を2月の大阪肢体不自由自立活動研究会で発表した。

#### 組織力の向上

・だれが異動してきても働きやすく取り組めるようにする。課題はあるが、案を取り入れながら改革していく。

・「安心安全な移乗支援」プロジェクトとして、しまだ医院と3年前から取り組んでいる腰痛研修1回や腰痛検診を2回実施した。

・リフト3台を導入し、アシストスーツやマッスルスーツをレンタルして検証。まずは、教員の腰痛予防として使い始めたが、教員だけでなく、子どもたちにとっても安全安心で包まれる安心感、筋緊張も落ち着き周りを見渡せることができ、リフトの効果は高い。リフトに包まれている子どもたちの表情を見て「周りをよく見ているね」と教員からの言葉掛けがあった。包まれている安心感から、周りを見ることができている。教員が、子どもたちに声を掛けられる余裕もあるのだと感じた。コミュニケーションがプラスされていることに気づいた。今後も積極的にリフトを活用していく。

#### 発信力の向上

・交流が例年程度に戻ってきた。焼き物のプレゼントや服のプロジェクトに取り組んだ。「対面交流」「オンライン交流」が増えた。

・病弱部だけでなく、肢体不自由部と協同で行いたいと思い、子ども笑顔モニター校として、アバターロボットを活用した実践をオンラインで発表した。

・アバターロボット活動報告(temiの紹介)。入院中アバターとして、原籍校と放課後や授業で担任や友達と会うことができ、児童生徒、原籍校、保護者、教員の笑顔につながることに気づいた。

・肢体不自由部と、病弱部のいいところが影響してお互いのいいところが相乗効果している。

#### (5) 「令和5年度 学校経営計画案」について

##### 【基礎】

- ・「報告・連絡・相談」については、原点に戻りしっかりとできる学校にしていきたい。
- ・「学校防災アドバイザー」を新しく取り入れた。子どもたちの福祉や地域が充実するように、大阪の状況を取り入れながら、大災害時の準備をしていく。

##### 【実践】

- ・「個別の教育支援計画」が令和5年より新様式となる。支援をつなぐものとして活用していきたい。

##### 【組織】

- ・限られた時間の中で、ニーズに応じた研修をビデオで見ることができるよう様々な研修をストックし、オンデマンド研修として活用していきたい。
- ・児童生徒・教職員にとって「安心安全な移乗支援」が実現するようリフトを活用していく。このリフトが、肢体不自由校で当たり前のように活用できるようになればと考えている。先進的に進め、実績を積んでいきたい。

##### 【発信】

- ・「光陽 GOGO フェスティバル」等で本校の実践を、保護者・地域幼稚園小学校・地域住民・福祉や医療関係者等に加えて事業所にも発信し、連携していく。

#### (6) 意見交換

- ・4月から毎週水曜日 17時で退勤することとなる。本校の教職員の校務の改善としてアイデアを出し合っていきたい。
- ・児童生徒・教職員の欠席連絡を電話から Google フォームでできるように進めている。
- ・「光陽 GOGO フェスティバル」の枠を広げ、学校でどのような取り組みをしているのか知ってもらう。児童生徒からも発信していく。スピーチコンテストに高等部が参加して様々な取り組みを広めてほしいと考えている。

#### (7) 教頭挨拶

#### 委員からの意見の概要

- ・リフトは生徒だけでなく、教員にとっても良いこと。予算をどうするのか。他校と協働して要望をあげてはどうか。リフト1台の金額60万円は高いが、教員が動けなくなり、病院へ行くことになったら講師を雇用する賃金の方が高い。
- ・大阪市全体では、朝の欠席連絡をインターネットツールで行っている。
- ・ICTの活用のすばらしさを感じた。病弱部に入院していたからこそできたことを感じた。メタバースの発表が楽しみ。
- ・子どもたちのことをよく考えられていると感じた。リフトを利用していただいて、もう少しコンパクトになって家庭でも使えるようになればいいと感じた。
- ・今までの安心安全を続けていくのを前提とし、授業の中で何ができるのかを考えて、計画的に取り組んで欲しい。教育課程をしっかりと認識し、語れるようになるのが大切。共通理解と説明ができるように。
- ・意識改革をし、働き方改革に繋げていく。教員の健康を守っていくことが大切。リフトの移乗の間に、教育活動

としてのコミュニケーションがどう生まれてくるのか。教育活動としてのリフトの活用を進めていくことができればよい。

・子どもたちからの発信は、とても大切。病弱部がモデルとなり、教員発信も子どもたちのモデルになる。メタバースに期待している。不登校の子どもたちにも活用できると思う。小中学校も含めての教育課程をどう設定するか課題がある。特別な教育課程を、どのように位置付けるか。小中学校においての大きな課題となっている。発信することで、考えるきっかけとなる。

次回の会議日程

日時

令和5年6月下旬予定

会場

大阪府立光陽支援学校 本館1階 図書室